

ミステリ読書案内

2023. 9. 21 発行元

第515号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

森村誠一「ベスト表」(再掲)

7月末に森村誠一の訃報が流れた。テレビのニュースでも新聞でも大きく取り上げられ、その作品や業績が讃えられた。私としても、急遽予定を変更して森村誠一の『ベスト表』を再掲することにした。

「人間の証明」のブームから

森村誠一と言えば、やはり『人間の証明』と角川映画のブームが最初に思い出される。世の中では「社会派推理小説」という呼び名が最もよく使われているような気がする。

私の『ミステリ読書案内』では第131号に『ベスト表』を載せた。「代表作」や「棟居刑事シリーズ」などの形で取り上げたこともあった。「代表作」として取り上げたのは『人間の証明』『日本アルプス殺人事件』『新幹線殺人事件』の三作。

今回は『高層の死角』と『野性の証明』を紹介してみることにした。

かつて書いた通り、森村ミステリの著作数は300冊を越えるが、短編集に関しては出版社ごとに独自編集したものが多数出ている、収録作品にはダブリが多い。入手困難な文庫本を探し当てても、中身はほとんどが既読でがっかりすることもある。私の未読として残っているのは上下巻に分かれた『人間の証明』『星の陣』『星の旗』『未踏峰』など20冊～30冊程度である。目標達成までもう少し。

「高層の死角」

1969年の江戸川乱歩賞受賞作品。よって講談社。小説家としては既に何冊か出版していたが会社小説であって、本書が森村ミステリのスタートと言ってもよい。

舞台は超高層ホテルのパレスサイドホテル。三十五階、客室二千室。社長は久住政之助。このホテルに対抗するように更に巨大な東京ロイヤルホテルが誕生し、その社長の前川礼次郎とは因縁のある関係だった。冒頭、パレスサイド側がアメリカの大手航空会社のCICと業務提携し、巻き返しを図ろうとするところから話は始まる。久住は最高階の3401号室を住まいにしていたが、ある朝部屋のベッドで刺殺されて発見された。扉には鍵が掛けられた密室。丁寧な平面図がついている。社長秘書の有坂冬子を訪ねた捜査員は、彼女が前日の夜に平賀刑事と一緒に過ごしていた事実突き当たる。平賀刑事は…ここから執念の捜査へ。

「野性の証明」

1977年角川書店。『人間の証明』『青春の証明』に続く作品。『証明三部作』と呼ばれている。

岩手県下閉伊郡柿の木村の「風道」と呼ばれる集落で皆殺しの事件が起きた。地域を巡回する保健婦によって発見された。五戸の住人と巻き添えと思われる若い女性のハイカーの死体が発見された。斧のようなものが凶器らしい。その後、犯人によって連れ去られた八歳の女の子・永井頼子がただ一人生き残りとして見つかったが、「青い洋服を着た男の人」と言うだけで他の記憶は失われていた。この事件の後二年後に登場してくるのが保険の外務員をしている味沢岳史。彼は遠縁の子だということで頼子を引き取り一緒に生活を始める。そして事件について調べ始めるのだった。また、亡くなったハイカーの妹である越智朋子も真相を求めて活動を開始するのだった。事件の後に隠されていたのは…。

《森村誠一ベスト表》

1. 高層の死角
2. 野性の証明
3. 人間の証明
4. 新幹線殺人事件
5. 虚構の空路
6. 棟居刑事の復讐
7. 東京空港殺人事件
8. 人間の証明 21st Century
9. 日本アルプス殺人事件
10. 超高層ホテル殺人事件
11. 腐蝕の構造
12. エンドレスピーク
13. 新・新幹線殺人事件
14. 名誉の条件
15. 恐怖の骨格
16. 花の骸
17. 白の十字架
18. 銀河鉄道殺人事件
19. 棟居刑事の黙示録
20. 密閉山脈
21. 棟居刑事の情熱
22. 棟居刑事の一千万人の完全犯罪
23. 暗黒流砂
24. 駅
25. 異型の白昼
26. 壁の目
27. 流星の降る町
28. 闇の掟明日なき者への供花
29. 終着駅
30. 養生の証明
31. 黒い墜落機
32. 勇者の証明
33. 棟居刑事の純白の証明
34. 致死連盟
35. 誘鬼燈
36. 南十字星の誓い
37. 青春の守護者
38. 炎の条件
39. 密閉城下
40. 祈りの証明 3.11の奇跡
41. 新・野性の証明
42. 笹の墓標
43. 棟居刑事悪の山
44. ガラスの密室
45. 殺人の債権牛尾刑事事件簿
46. 凶水系